



11月の日曜日、はじめ君と私と2人で、相模原博物館、宇宙科学研究所と遠足に行ってきました。博物館では、初体験のプラネタリウムを見ました。最初は珍しくて、目を丸くしてましたが、暗くなると私の手を握り「ちよつとこわいね」と言った後、緊張したのか「おしっこ」。ものの20分程で退場となりました。

そのあとお隣にある、宇宙科学研究所に行き、本物のロケット本体とロケットの発射時の爆音を体験してきました。さすがに男の子、こちらの方は興味津々に見ていました。小学生に上がったら、この時の経験を思い出し、野球のイチロー選手やサッカーの本田選手のように「ボクは宇宙飛行士になりたい、というよりも宇宙飛行士になる。」なあって書かないかなあ〜？将来何でもできるはじめ君。君がやりたい自分を見つけるまでジイは長生きしよう(^\_^)

モンスターペアレント(学校に対して自己中心的で理不尽な要求を繰り返す保護者を意味する。)例えばこんな事。

事例①指揮者役の子供の親から「背中しか見えないからこちらを向かせろ」

事例②朝起きられないからモーニングコールして！

事例③遠足のお弁当を作る時間がないし、買弁だといじめに遭うから先生が作ってきて！

事例④今年の桜がきれいじゃないのは、学校の教育が悪いせいだ！

事例⑤子供に掃除させないで！業者に

頼めばいいじゃない！

まだまだあります。・親の分の朝食も用意して・学校で爪を切って・毎朝子供を起こしに来い・保育所で汚したものは保育所で洗濯して・うちの子を絶対〇〇に合格させるといふ念書を書け！「ふう〜」ため息の世界です。

バカじゃないの？私は、娘が当時荒れている中学校に入学するとき先生にお願いしたものです。「娘が道に外れるようなことをしたらボコボコにぶん殴って下さい」って。

くやしくて、情けなくての話(実話)  
「息子の学校へ忘れ物を届けに行った時、学校は中休みで、子供達は校庭で遊んでいた。正面玄関を抜けたところにある花壇で軽い生涯のある子が、上級生に囲まれて泣いていた。その中のリーダー格の一人が、「やれよ、時間がねえんだよ。やらなきゃ殺すぞ。」と凄んでいた。頭にヘッドギアをつけた、おそらく肢体不自由の他に知的障害もあるであろう特殊学級の子が、しくしく泣いている、その姿に勝ち誇るように、そう言い放っていたのは、俺の息子だった。

俺は背後から息子の髪を掴んで地面に叩きつけた。まさかここにいるわけのない父親の顔を見て、信じられない症状の息子の胸ぐらを掴んで立たせ、顔面を殴った。生まれて初めて親父に殴られた恐怖に、顔をこわばらせる息子に「時間がねえなら、てめえがやれ」と俺は言った。俺は息子をてめえなんて呼んだことはないし、ましてや殴ったこともなかった。小さいときから、人に優しくあれと教えてきたつもりだった。小さい子、弱い者を守る事的美徳を教えてきたつもりだった。こんな陰湿ないじめをするようなガキに育てたのは俺の責任だ。そう思ったら、くやしくて、情けなくて、また息子を殴った。鼻血を出してうずくまる息子を見下して仁王立ちになった俺を、職員室から飛び出してきた担任が止めた。帰り道で涙が止まらなかった。全部俺の責任なんだ、そう思うといたたまれなくなった。」ボク涙出た。(T\_T)